

各 位

令和2年11月1日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



紅葉が美しいカエデの林 (10月30日撮影)

野草園も紅葉が進み、すっかり秋の気配となりました。「ウランウデの庭」にあるカエデの林はヤマモミジやイロハモミジ、ハウチワカエデの葉は赤く、イタヤカエデやカジカエデの葉は黄色く染まり、紅葉真っ盛りです。カエデの仲間の木は他の木より紅葉が鮮やかです。

また樹木にはたくさんの果実が付いています。カンボクやウメモドキの木には赤い果実が、ツルウメモドキの木には黄色の果実が、そしてムラサキシキブの木には紫色の果実が付いています。

これらの果実は、園内にいるたくさんの鳥たちの餌になるのかもしれませんが。

春と秋にも花を咲かせるジュウガツザクラの木は葉が落ちたにもかかわらず、少しずつ開花しています。野草園の11月前半は、樹木の紅葉と木の実が晩秋の気配を感じさせてくれます。是非、園内を歩きながら紅葉をお楽しみください。

11月の予定

◆【第27回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展】

○日 時 10/17(土)~11/23(月) 9:00~16:30

○場 所 自然学習センター

○費 用 入園料300円のみ(高校生以下無料)

◆【東北芸工大生日本画展「咲き、実り。」】

○日 時 11/17(火)~11/27(金) 9:00~16:30

※17日は13:00から、27日は15:00まで

○場 所 自然学習センター

○費 用 入園料300円のみ(高校生以下無料)

●●● 11月前半に見られる花と樹木の果実と紅葉 ●●●



ジュウガツザクラ(バラ科)

コヒガンザクラの園芸品種で春と秋の2回花が咲きます。通常小木で樹皮は暗灰褐色、若枝、成葉、葉柄などに毛があります。葉は互生し、倒披針形で質はやや厚いようです。花は淡紅白色で八重咲きです。和名は十月桜で、秋から開花するからです。秋に咲く花は小形です。野草園では冬には休んで、また春に咲き始めます。



タイワンホトトギス(ユリ科)

沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30~50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種はタイワンホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



マルバノキ(マンサク科)

山地に生える落葉低木です。葉は互生し、卵円形または円形で基部は心形です。秋には美しく紅葉します。葉の脇に、暗紅紫色の花を2個背中合わせに開きます。花弁は5枚あり、星形に平開します。マルバノキはその葉が丸いことに基づいた名前です。野草園では、シーズン最後に開花する花です。



センニチコウ(ヒユ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、よく庭園に植えられています。実は熱帯地方原産の1年生草本です。高さ50~80cmの茎先に径2cm程の球状の花を1個付けます。花は、色のついた翼のある2個の小苞に包まれた“多数の小花”からできていて、小花は普通紅色ですが、まれに淡紅色、または白いものがあります。和名は花が長持ちするからです。



ムラサキシキブの果実(シソ科)

山野の林内や林縁に生える落葉低木です。葉は対生で、形は長楕円形、先が尾状にとがり基部は狭いくさび形です。夏に淡紅色の小さい花をたくさんつけます。花も美しいですが、果実もまた、紫色でとても美しく見えます。果実は、葉が落ちた後も枝に長く残っています。和名は美しい果実からつけられたようです。



ツルウメモドキの果実(ニシキギ科)

日本を含め、東アジア一帯に自生するつる性の落葉低木です。伸びた枝の先に黄緑色の花を集めて付けていました。今は、淡黄色に熟した果実がはじけ、3つに裂開し、その中から赤い仮種皮の種子が見えています。その姿がきれいなので、生け花の材料によく使われます。



ナツハゼの果実(ツツジ科)

山地や丘陵地に多い落葉低木です。葉は互生し、広卵形で先はとがり全縁です。6月に枝の先に総状花序を出し、淡黄色の鐘形の花を多数つけました。果実は直径4~6mmの球形の液果で、表面は光沢があり頂部に跡がみられます。熟すと黒褐色になり、酸味があり食べられます。



イギリの果実(ヤナギ科)

本州以南に分布する落葉高木で雌雄異株です。和名の由来は、昔、その大きな葉で飯を包んだため「飯桐」と言われるようです。ブドウの房のように垂れ下がった果実は、ナンテンに似ているので、「ナンテンギリ」とも言われます。おいしそうに見える実ですが、まずくて食べられないようです。



ツルリンドウ(リンドウ科)の果実

山地の木陰などに生えるつる性の多年草です。草木にからんで長さ40~80cmになった細長い茎の葉腋に、ラッパ型の花を付けます。花冠が淡紫色で先は5裂し、花冠の長さは2.5~3cm。対生する卵状披針形の葉は有柄で、葉脈が縦に走るように見えるのが特徴です。果実は液果で、残存する花冠の上に突き出し濃い紅紫色に熟しま



カンボクの果実(ガマズミ科)

初夏に白いガクアジサイのような花を咲かせましたが、今は真っ赤な果実を多数付けています。つぶしてみると強い臭気があり鳥も食べないようです。そのため果実は葉が落ちた後も春まで残ります。



ヤマモミジの紅葉(ムクロジ科)

北海道や日本海側に多い落葉小高木で、葉は対生で掌状に深く5~9裂し、縁は重鋸歯になっています。園内で最も多いカエデです。紅葉は木全体の葉が赤くなるもの、黄色くなるものがあり、変異が多いです。



ハウチワカエデの紅葉(ムクロジ科)

寒い地方に生える代表的なカエデです。葉は対生で、掌状に7~11に浅裂または中裂し、基部はハート形です。大きい葉を羽うちわに例えたことが和名の由来で、真っ赤に紅葉するものが多く、明るい橙~黄色に紅葉するものもあります。



イタヤカエデの黄葉(ムクロジ科)

山地に生える落葉高木で、葉は対生し掌状に5~7に中裂~浅裂し、裂片の先端はとがります。秋に黄色く色づくカエデの代表で、成木はほぼ必ず黄色になりますが、若木や幼木は橙色や赤色に染まることもあります。



イロハモミジの紅葉(ムクロジ科)

葉は掌状に深く5~9裂します。和名は、この裂片を「いろはにほへと…」と数えたことに由来します。秋には黄褐色から紅色に紅葉します。葉はオオモミジやヤマモミジなどに似ていますが、本種の葉は一回り小さく、鋸歯が粗く不揃いなところで区別され



メグスリノキの紅葉(ムクロジ科)

落葉高木で、樹皮を煎じて洗眼に用いたので、メグスリノキと呼ばれています。対生する葉は三出複葉で、小葉は長楕円形です。春、枝先に付く白色花はあまり目立ちませんが、秋は見事に紅葉します。